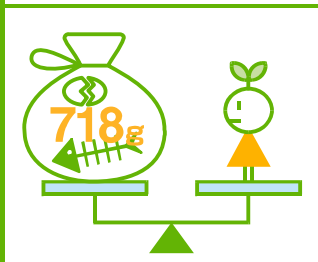


手稲区からはじめよう、 生ごみリサイクル!

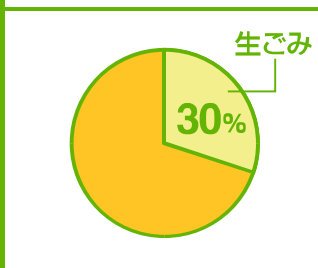
一人ひとりがごみのことを考えると、
環境も暮らしも変わってきます。

家庭から出る1年間の
ごみの量は約**49万t**
札幌ドーム約**3杯分!**

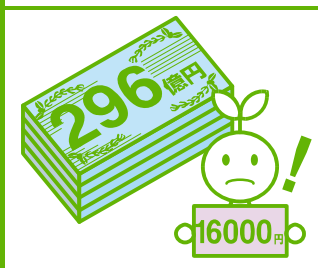


1人1日平均**718g**も
ごみを出している!

家庭ごみの
約**30%**は**生ごみ!**



ごみ処理費用は
年間**296億円**、
市民1人あたり
16,000円も
かかっている!



毎日の暮らしの中で、たくさんの生ごみが出ます。札幌市では生ごみを燃やせるごみとして焼却処理していますが、この処理には多くの費用とエネルギーを使っています。そして、ごみステーション、収集作業、焼却処理とすべての場面で厄介者となっています。

しかし、生ごみは土に埋めると微生物によって分解され堆肥になります。このはたらきを効果的に利用して、安全で良質な肥料をつくることができます。生ごみからできた堆肥を花木や野菜の肥料として使い、ごみ・環境問題の解決にも貢献する、そんな一石二鳥の生ごみ堆肥化の波を、手稲区から広げていきたいですね。生ごみリサイクル——みなさんも始めてみませんか?

※数値、金額は、平成18年3月札幌市環境局発行「SAPPORO GOMIマガジン」より



堆肥化で生ごみも資源に! はじまっています、生ごみリサイクル!

●平成18年度 手稲区 生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業

生ごみ分別収集 ～堆肥化のモデル事業を実施

生ごみも資源! 分別もそんなに大変じゃない!

手稲区では、生ごみを減らし、資源の有効活用や緑を増やすための取り組みとして、生ごみの堆肥化とその堆肥を環境美化などに活用するといった、新しいエコスタイルのあり方を提案しています。平成18年度は、生ごみの分別や資源として再利用することについての意識調査などを行うことを目的に、「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」を実施しました。この事業では、環境に対する取り組みに意欲的な新発寒新生町内会から40世帯に参加いただき、家庭から出る生ごみを分別回収し、できあがった堆肥を町内会ぐるみで花植えをしている道路の植樹柵で活用するモデル事業としてご協力いただきました。参加した家庭では、調理くずなどの生ごみだけを、1週間分、分別してバケツにためてもらい、8月に週1回ずつ、4週間回収。堆肥化施設で堆肥にしました。

1週間分の生ごみを抗酸化バケツに分別。回収した生ごみは、1日1世帯平均で500g程度になりました。



参加者は、分別も苦にならず、有意義な試みであったという意見が多く、生ごみ減量への意識がさらに高まったようです。手稲区では、今後、より多くの方に生ごみの減量・堆肥化などでご協力いただき、生ごみリサイクルを推進して、ごみ問題の解決を図っていきたくと考えています。



生ごみを減らし、 街をきれいに! 住民の意識向上 にもつながりました!

手稲区新発寒新生町内会会長
松田 初夫さん



新生町内会は、ゴミ出しのマナーもよく、クラス対策など環境整備に住民の関心が高いことから、環境庁長官賞もいただいています。生ごみ堆肥化はとても意義のある事業で、町内会としても積極的に協力させていただきました。参加した40世帯の反省会でも好評で、ごみを出さない、町をいつもきれいにという意識も、これまで以上に高くなりました。

分別はまったく 苦にならない! 堆肥化で生ごみも すごく減りました!

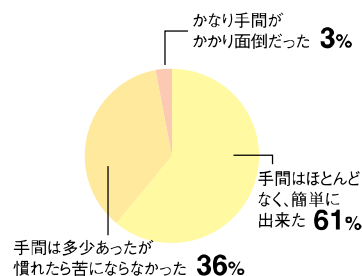
手稲区新発寒新生町内会女性部長
渡邊 悦子さん



これまで、燃やせるごみの中で、生ごみが占める割合、重量がとても大きいな感じていました。今回の生ごみ分別収集はごみ減量につながり、堆肥として有効に活用できるのもうれしいですね。生ごみの分別の手間もまったくかからず、においもそれほど気になりませんでした。いただいた堆肥は、庭の肥料に使おうと思っています。

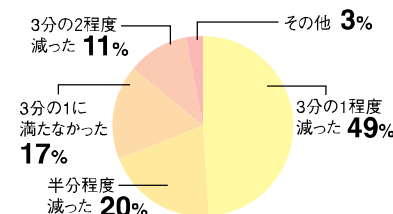
生ごみ分別の手間は?

——97%が分別の
手間は苦にならない!



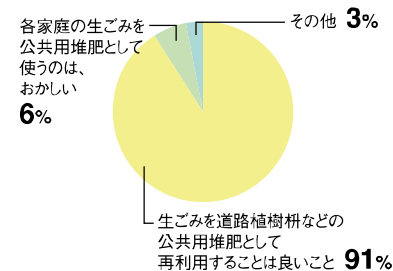
燃やせるごみの減量感は?

——80%以上が
減量感を実感!



公共スペースでの生ごみ堆肥活用は?

——91%以上が肯定的!



モデル事業参加者へのアンケート結果より
(36世帯回収)

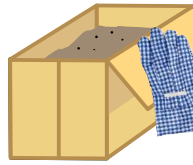
できた堆肥で 街もきれいに!

モデル事業の期間中に回収された生ごみの量は520kg、これから生成された堆肥400kgが同町内会に還元されました。100kgは参加者40世帯の家庭用に分配し、残り300kgは道路の植樹柵に使用します。10月6日には町内会のみなさんが参加して、そのうちの50kgを植樹柵の花や木の肥料としてまくイベントを行いました。残りの堆肥は、平成19年春に町内全域の土づくりに活用する予定です。



新発寒新生町内会のみなさん

ダンボール箱を使った 生ごみ堆肥化 講習会を開催



区民ホールと新発寒新生会館で開催、
意識の高い区民が多数参加

「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」の一環として、家庭でも簡単に取り組める「ダンボール箱を使った生ごみ堆肥化講習会」を手稲区民ホールと新発寒新生会館で開催しました。区民ホールでの開催は9月28日に約200人が参加。循環（くるくる）ネットワーク北海道の中家隆夫さんと中村靖子さんを講師に迎えて、さっぽろのごみ事情やダンボール箱を使った生ごみ堆肥化の方法をお話いただきました。また、新発寒新生会館での講習会は、モデル事業にご協力いただいた新発寒新生町内会から約30人が参加し、10月1日に開催。循環（くるくる）ネットワーク北海道の木村雅治さんと中村靖子さんに講師をお願いしました。



大勢の区民が参加した区民ホールでの講習会



「さっぽろのごみ事情について」話す
中家隆夫さんと中村靖子さん



新発寒新生会館での講習会

次ページの「ダンボール箱を使った堆肥化」に
チャレンジしてみてくださいね!

中村靖子さんが教える “失敗しない堆肥づくりのコツ”

- しっかりとしたダンボールを選び、紙のガムテープでとめましょう。きちんとはめられるフタをつくりましょう。
- ダンボール箱の通気性を確保するため、足をつけて床から5～6cm離し、壁との間もあけるようにしましょう。
- 生ごみの量はばらつきがあってもかまいませんが、生ごみを投入しなくても、1日1回はしっかりとかき混ぜてください。
- 水分は50%くらいが適当で、握ったときに固まってからポロポロと崩れる状態がベストです。
- 水分が多いときはピートモスともみがらくん炭を足してみてください。
- 温度が上がらないときや虫が発生したときは、米ぬか（ひとつかみ）や廃食油（コップ1～2杯）、きなこなどを入ると温度が上がり、効果があります。
- においや虫が出たときは、3か月経っていてもやめて、また新しく始めてみるのもいいでしょう。
- 堆肥は、家庭菜園などでは1㎡あたり1～1.5kg、プランターでは土の1/6～1/8くらいになるように使用してください。
- 仲間をつくって情報交換しながら、肩ひじ張らずにやるのが長く続けるコツです。



「ダンボール箱を使った生ごみの堆肥化について」
話す中村靖子さん

生ごみ
堆肥を
活用
しましょう!

ダンボール箱による生ごみ堆肥の活用先として、道路植樹柵のほかに、家庭菜園や市民農園、ガーデニング、プランターなどでの使用が考えられます。土に混ぜ合わせ、肥料として使用してください。



① 道路植樹柵などの公共の場で

② 家庭菜園や市民農園で



③ ガーデニングに

④ プランターや植木鉢などにも



